

統辞論的観点から見た 韓国語の形容詞 manhta と 日本語の形容詞「多い」

— 形容詞の述語用法と連体修飾用法に着目して —

安 垠姫(アン・ウニ)
(東京外国語大学大学院博士後期課程)

1. はじめに

1.1 研究の目的

本稿は、韓国語の形容詞 manhta (lit. 多い, 以下「많다」)¹と日本語の形容詞「多い」の対照的な分析を行い、併せて日韓の語彙の対照的記述の方法論を模索せんとする試みである。

韓国語の形容詞「많다」と日本語の形容詞「多い」はそれぞれの言語の中で使用頻度の高い形容詞であり、「数や量が豊かである」という意味を持ち、しばしば類似した用法で用いられる：

(1) 오늘은 날씨가 좋아서 결혼하는 사람이 많겠다. (BEXX0002)

今日は天気がよくので結婚する人が多そうだ。

(2) 客は学生が多かった。(冬の旅)

손님은 학생이 많았다.

その一方で、「많다」と「多い」には次のような用法上のずれが見られる：

(3) 팬들이야 가슴 아프지만, 저런 프로그램이 인기가 많아요.(i)

(lit. 人気が多い)

ファンたちは胸が痛むかもしれないけど、あんな番組が人気があるんですよ。

(4) イギリスは雨が多い。(i)

영국은 비가 많이 내린다.

(lit. 雨がたくさん降る)

¹ ハングルのローマ字転写(transliteration)はYale方式による。

(3)に見られる「인기가(人気)」は日本語の「多い」とは共起しにくい名詞句であり、(4)に見られる「雨が(비가)」は韓国語の「많다」と共起すると不自然さが感じられる文になる。また韓国語の「많다」は連体形の形をとって、以下のように単独で連体修飾の用法で用いられる：

(5)작은 객선에는 많은 사람이 타고 있었다. (BEXX0024)

小さな客船にはたくさんの人が乗っていた。

(5)に見られる韓国語の「많은 사람(lit. 多い人)」は日本語では「多い人」と現れにくく、「多くの人」、「たくさんの人」が好んで用いられる。韓国語と日本語の形容詞は文中で述語となったり、連体修飾的に用いられったり、副詞的に用いられったりするなど、様々な働きをする点において類似点を持つが、個々の単語の用法においてはこうした差が現れる。しかし、日本語と韓国語の語彙についての既存の対照研究は専ら意味論的な観点から行われる場合が多く、単語が実際に文の中で見せる振舞いに注目した対照研究は、ほとんど見られない。

本稿は、日韓対照研究のこうした限界を超えて、「많다」と「多い」という2つの単語の、文の中で具体的な現れ方に着目するものである。その際、本稿では「많다」と「多い」が文中で実現する構造を3つに分けて考察することにする。こうした構造と、「많다」と「多い」それぞれと共起する名詞句の現れ方との関連性にも注目しつつ、語彙の意味的側面と統辞的側面との相関にも触れることとする。語彙を統辞論的な観点から照らすというこうした試みは、単なる個々の語彙対照のレベルを超えた、文中で現れる単語のありようを対照するための、一つの方法論的な提起でもある。

1.2 先行研究

これまでの日韓の語彙の対照研究は、概ね梅田博之の段階に留まっており、未だに基礎語彙の対照研究が充分になされていない。形容詞の日韓対照も本格的になされた研究がなく、特にこれまでの韓国語の形容詞の研究の流れは、主に心理形容詞の統辞構造もしくは主格重出構文などの問題に偏っており、語彙の意味記述それ自体にはあまり目が向けられなかった。他方、従来行われてきた意味記述は、専ら意味論的な方法論に基づいたものが多い。単語の意味を、文という構造から描き出そうとする方法論的な試みはあまり見られず、辞書という形で行われてきた意味記述がほとんどである。

対照的な記述を見ると、韓日対訳辞書である油谷幸利他(1993)では、「많다」の対応語彙として「多い」、「たくさんだ」を提示、幾つかの例文を挙げているが、それぞれの用法上の特徴や相違点に関する詳細な記述は行われていない。

「많다」と「多い」それぞれの意味記述を見てみることにする。コーパスから得られた資料に基づく辞書である연세대학교 언어정보개발원 편(1998)における「많다」の項目をまず

見ると、次のごとくである：

- (1) (物事の数や量が)一定の基準を超え、数量がたくさんある．少なくない．
- (2) (どこかにあるものの量や数が)一定の水準以上である．少なくない．
- (3) (程度が)ある水準を上回っている．²

これでも分かるように、意味分類の基準は明確ではなく、抽象的な記述となっており、実際用いられている「많다」の様々な用法の姿は分かりにくい．統辞論的観点から形容詞の分類を行った유현경(1998)³は、「많다」をいわゆる「所有形容詞」⁴のグループに分類し、所有形容詞文の構造は「N1-에 N2-가 Adj (N1-に N2-が Adj)」となり、「N1-에(に)」は「N1-가(が)」に置き換えが可能であると述べている．しかし同稿における論議は、主に「있다(ある, いる)」を中心に所有形容詞文一般について行われており、「많다」それ自体を取り出して考察しているものではない．

一方、日本語の森田良行(1989 ; 1996)の「多い」の記述を見ると⁵、「物事の数量が標準や比較の対象を上回る状態. 「多い」で表される事物は種々ある. (1)物の数「不良品が多い」、(2)動植物「赤松の多い林」、(3)人「このクラスは女子が多い」、(4)金額など「売り上げは、多いときは一億円にもなる」、(5)抽象的な事柄「仕事が多い」、(6)回数「彼は遅刻が多い」、(7)物の量「梅雨が長かったせいか水嵩が多い」など、「多い」と共起する名詞の意味的な特徴が、詳しく挙げられている.

寺村秀夫(1982)は「文の中核をなす『コト』の内部構造について述べながら、統辞論的観点から「コトの種類」を6つに分け、「多い」をそのうちの「存在の表現」に分類している．「存在の表現」はまた4つのグループに分けうるが、「多い」はそのうち、①物理的存在(あるとき、あるものがある空間を占めて存在する)②所有、所属的存在③部分集合、または種類の存在、の3つのグループに属するとされている．⁶

2 訳は筆者による．

3 유현경(1998)は의미역(theta - role), 격틀(case frame)などの概念を用い、統辞論的観点から形容詞の網羅的な分類を試みた．①主観形容詞：心理・感覚・判断形容詞②客観形容詞：形状・場所交差・対称・基準・所有・所在・可能・対応・態度形容詞(訳：筆者)

4 所有形容詞のグループに属するものは「다분하다(多分にある), 많다(多い), 풍부하다(豊富だ), 없다, (ない, いない), 있다(ある, いる)など」となっている．

5 原著にある例文からそれぞれ一例のみ紹介しておく．

6 ① 物理的存在(あるとき、あるものがある空間を占めて存在する)

述語：ある, ない, いる, 多い, 少ない

補語：存在するもの(X) → X가

存在の場所, 位置(Y) → Y= (準必須補語)

② 所有, 所属的存在

述語：ある, いる, 多い, 少ない

補語：存在するもの(X) → X가

Xを所有する人, あるいはXが所属する人(Y) → Y=

③部分集合, または種類の存在

日本語の語彙の用法的側面に関する研究は、上述の森田良行(1989 ; 1996)などで比較的詳細な記述の試みがあり、特に国立国語研究所(1972)は、周辺のと思われる用例についても丹念に記述している点など、記述そのものに重点が置かれている。これらは本稿の議論に対しても示唆するところが大きい。

2. 研究方法

2.1 統辞論的観点から見た語彙の対照

2.1.1 単語結合の型に注目

本稿では「 많다 」と「多い」の意味と用法を描き出すために、とりわけ「 많다 」と「多い」それぞれと文中で共起する名詞句の現れ方に注目することにする。即ち、単語結合⁷の型を抽出し、照らし合わせるものである。例えば「人が多い」の「人」のように補語となる名詞句を X とし、X の現れ方を考察することにする。⁸ X との共起関係を述べる場合は「結合する」という術語を用いることとする。更に結合する X のカテゴリー的特徴に注目し、名詞の分類も試みることにする。

2.1.2 文中で実現する3つの構造に注目

「 많다 」と「多い」の文中における働きという側面に注目すると、大きく「述語としての働き」と「連体修飾としての働き」とに分けることができる。⁹ 例えば、「사람이 많다(人が多い)」、「많은 사람(多くの人)」¹⁰の構造がそれぞれに該当する。ところが、「사람이 많은 거리(人が多く通り)」のような、述語と連体修飾にまたがった用法も存在する。本稿では、こうした用法を「連体述語用法」として区別して扱うことにする。これまでの語彙の用法の記述は、主として述語となった場合のみを対象として行われてきた場合が多かったが、本稿では、【表1】のように文中で実際に現れる構造を、大きく3つに分けて考察することにする：

述語：ある，いる，多い，少ない

補語：主体(ある部分集合) → X가

判断の及ぶ範囲(Xを含む集合)(Y) → Yノ中ニ(副次補語)

7 単語結合(*slovosochetanie*)。1つの統辞論的単位としても認められうる。定義については趙義成(1997)、方法論的な有用性については노마 [野間秀樹] (2002b)参照。日本語学における「連語論」と基本的には同じ立場にあるが、日本語の「連語論」では「主語+述語」の組み合わせを単語結合と見做さない点で、趙義成や野間秀樹の単語結合は異なる。言語学研究会(1983)参照。連語論は主に構文論的な研究に用いられてきたが、本稿では新たな観点から、単語の用法を記述する方法論として用いる。なお韓国語学におけるいわゆる「연어(lit. 連語)」は「collocation」の訳語でしばしば用いられるが、その定義に関しては研究者によって異なっている。

8 「사람이 많은 백화점(lit. 人が多くデパート)」、「많은 사람(lit. 多い人)」の場合の「사람(人)」も単語結合をなす名詞句 X として扱う。

9 もう1つの働きとして副詞的用法(または連用用法)も考うるが、本稿では2つの用法に限定して考察することにする。

10 文の階層構造の側面における研究では「많은 사람들(多くの人々)」のように単独で現れる形容詞の連体形も、時制(tense)もしくは法(mood)、あるいはそれらの混交の対立が存在していることから、野間秀樹(1997a)は節として認定しようとしている。

【表 1】「 많다 」と「多い」における 3 つの構造

NA 型	「X 가 많다」 ¹¹ 「X が多い」	백화점에 <u>사람들이 많다</u> . (lit. デパートに人々が多い)	述語用法
NAN 型	「X 가 많은 M」 ¹² 「X が多い M」	<u>사람들이 많은</u> 백화점. (lit. 人々が多いデパート)	連体述語用法
AN 型	「많은 X」 「多い X」	<u>많은 사람들이</u> 백화점에 물렀다. (lit. 多くの人々がデパートに押し寄せた)	連体用法

それぞれの構造を「NA 型」¹³、「NAN 型」¹⁴、「AN 型」¹⁴とし、それぞれの用法を①述語用法、②連体述語用法、③連体用法と呼ぶことにする。

2.1.3 その他の形態・統辞論的な特徴に注目

文中で「 많다 」と「多い」それぞれと共起する形態・統辞論的要素の現れ方を考察する。助詞、副詞的修飾語などの分布的な特徴も照らし合わせることにする。

2.2 両言語それぞれにおける言語資料に基づく計量的な分析

本稿では両言語ともに実際に用いられている言語資料に基づき、計量的な分析を行った。計量に用いた言語資料は、韓国語は「21 세기 세종계 획균형말뭉치 (21 世紀世宗計画均衡コーパス) (1999)」¹⁵から抽出した「 많다 」の用例 1331 例、日本語は「新潮文庫の 100 冊 (CD 版) (1995)」¹⁶から抽出した「多い」の用例 541 例である。必要に応じて基本資料以外の用例に言及することもあるが、計量的な分析はすべてこれらの言語資料に基づいた。¹⁷

2.3 対照の方法—共通の枠からの照らし合わせ

本稿では対照の枠組みとして主に「名詞のカテゴリー」と「3 つの構造 (NA 型, NAN 型, NA

11 「X 는(X は)」、「X 도(X も)」あるいは、「 많았다(多かった)」などの形態も、「X 가 많다(X が多い)」の形で代表させ、連体形の「 많은(多い)」、「 많았던(多かった)」なども全て「 많은 X(多い X)」で代表させることにする。日本語の「X の多い M」なども「X が多い M」の形で代表させる。

12 特に連体述語用法(連体と述語にまたがって用いられる)で用いられるときに現れる head noun のことを、M(modificand: 被修飾語)と示しておくことにする。

13 N は NP(名詞句)、A は Adjective(形容詞)。

14 連体用法の中、主格名詞を伴わない場合は全て「AN 型」に分類した。(例:公園に多い桜)

15 「21 세기 세종계 획 균형말뭉치(21 世紀世宗計画均衡コーパス)(1999)」「문어(書きことば)」の中、1990 年以後の小説を対象とし、用例検索プログラムの「글잡이 II(색인)(クルジャビ II(索引))」を用いて抽出した用例。「 많았다」、「 많고」など全ての形態を対象とした。「 많아지다」のように品詞が変わるものは除外した。資料中の誤入力と判断されるものや理解不能の用例は除外した。

16 戦後の作品のみ対象にし、「多かった」、「多ければ」など全ての形態を対象とした。副詞的用法の「多く」、名詞的用法の「多くの」などは除外した。

17 具体的な記述の方針は、下記に従う。

(1) 訳は、特に表示がない限り、筆者による。

(2) 出典表示がない用例は作例である。

(3) 不自然だと判断される文は、「？」で表示する。

(4) 「 많다」、「多い」と結合する X のところに下線を引いた。波線は問題となる部分に示す。

(5) 用例の前後の省略部分は、「～」で表示する。

型)」を用い、「 많다」と「多い」を照らし合わせることにする。以上を整理して表すと、以下の通りである：

- (1) 「 많다」と「多い」は文中でいかなる名詞句とよく結合して現れるか
- (2) 「 많다」と「多い」は文中でいかなる構造でよく実現されるか
- (3) 「 많다」と「多い」の単語結合と文中で現れる構造とは、いかなる関連性を持つか
- (4) 「 많다」と「多い」の構文に現れる他の形態・統辞論的要素の特徴は何か

3. 「 많다」と「多い」それぞれと結合する名詞句と3つの構造の現れ方

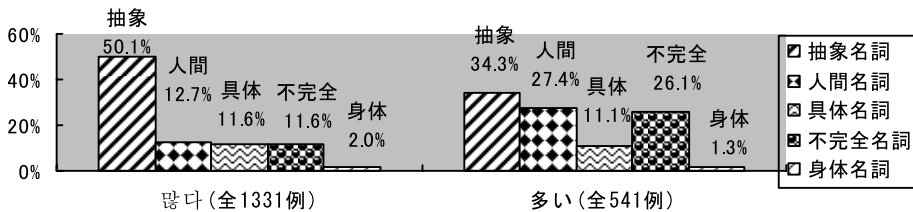
3.1 「 많다」と「多い」それぞれと結合する名詞句の現れ方

「Xが多い」、「Xが多いM」、「多いX」のように、「 많다」と「多い」それぞれと結合する名詞句(以下X)の意味的な特徴に注目し、野間秀樹(2002a)を参考とし、Xに立つ名詞の分布を【人間名詞】、【身体名詞】、【具体名詞】、【抽象名詞】、【不完全名詞】¹⁸のカテゴリーに分けて分類した。¹⁹ 分析の結果は以下の通りである：

【表2】 「 많다」と「多い」それぞれと結合するX

「 많다」： 抽象名詞(665例, 50.1%) > 人間名詞(330例, 12.7%) > 具体名詞(155例, 11.6%) > 不完全名詞(155例, 11.6%) > 身体名詞(26例, 2.0%)

「多い」： 抽象名詞(185例, 34.3%) > 人間名詞(148例, 27.4%) > 不完全名詞(141例,



26.1%) > 具体名詞(60例, 11.1%) > 身体名詞(7例, 1.3%)

¹⁸ 形式名詞(formal noun)とも言うが、本稿では不完全名詞(defective noun)と一括して用いることにする。韓国語は「것」, 「때」など。日本語の場合は「こと」, 「の」, 「ところ」など。名詞によっては完全名詞と不完全名詞との境界が曖昧なものもあるが、「 많다」, 「多い」の文における現れ方から判断した。例えば「买(ところ)」は不完全名詞, 「일(こと, 仕事)」は抽象名詞に分類した。日本語の「こと」, 「の」などは、複文の研究で「埋め込み節」を形成するものとする見解もあるが、ここでは「連体節」の成分に含めた。

¹⁹ 野間秀樹(2002a)の名詞分類を参照して再構成した。本稿で再構成した名詞のカテゴリーを野間秀樹(2002a)の名詞分類と対照すると以下の通りである：

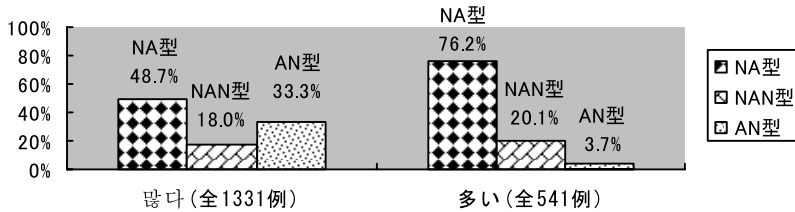
- 【人間名詞】： 人間名詞
- 【身体名詞】： 身体名詞
- 【不完全名詞】： 不完全名詞
- 【具体名詞】： 具体・動植物名詞
- 【抽象名詞】： 抽象・事項・性質・物質・団体・活動・営為・時間・数量・位置・形容名詞

「 많다 」と「多い」に見られる大きな違いは、「 많다 」と結合する名詞句には【抽象名詞】が50.1%の高い頻度を示したが、「多い」の場合は【抽象名詞】、【人間名詞】、【具体名詞】がそれぞれ高い頻度で現れ、特に【不完全名詞】は「 많다 」に比べて顕著に高い頻度で現れた点である。

3.2 「 많다 」と「多い」が実現する3つの構造

テキストに現れた「 많다 」と「多い」それぞれの3つの構造の頻度を見てみよう：

【表3】 テキストに現れた「 많다 」と「多い」の3つの構造



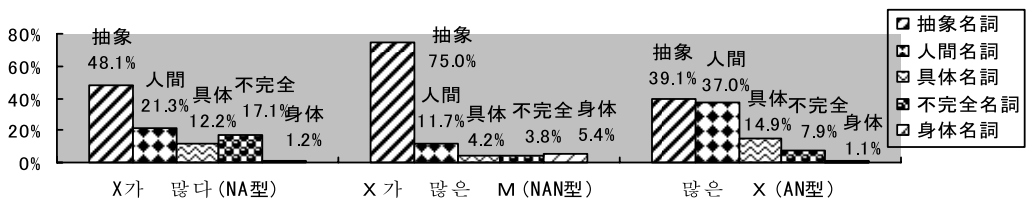
「 많다 」： NA型(648例, 48.7%) > AN型(443例, 33.3%) > NAN型(240例, 18.0%)
 「多い」： NA型(412例, 76.2%) > NAN型(109例, 20.1%) > AN型(20例, 3.7%)

「 많다 」と「多い」の顕著な違いは、「 많다 」において443例, 33.3%を占める「AN型」が、「多い」においては20例, 3.7%に過ぎない点である。

3.3 3つの構造別に見る「 많다 」と「多い」の単語結合

ここでは「 많다 」と「多い」の単語結合と文中で実現する構造との相関を示すことにする。「 많다 」が実現する「NA型」、「NAN型」、「AN型」という3つの構造それぞれについて、結合するXの分布を示すと以下の通りである：

【表4】 韓国語の「 많다 」と結合するX

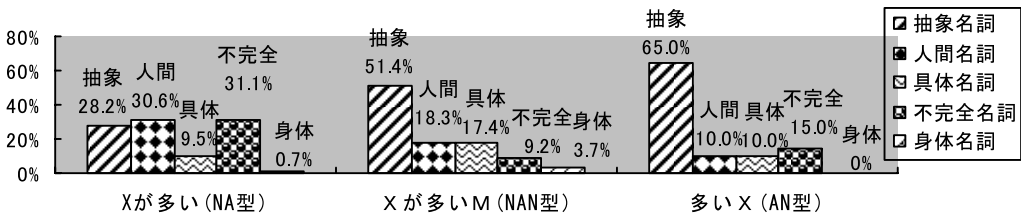


	X가 많다 (NA型)		X가 많은 M (NAN型)		많은 X (AN型)	
抽象名詞	312例	48.1%	180例	75.0%	173例	39.1%
人間名詞	138例	21.3%	28例	11.7%	164例	37.0%
具体名詞	79例	12.2%	10例	4.2%	66例	14.9%
不完全名詞	111例	17.1%	9例	3.8%	35例	7.9%
身体名詞	8例	1.2%	13例	5.4%	5例	1.1%
	648例	100%	240例	100%	443例	100%

「많다」と結合する X の分布は各構造ごとに若干異なる。特に「X가 많은 M」における【抽象名詞】は 180 例、75.0% の圧倒的に高い頻度で現れている。「X가 많다」の X として【不完全名詞】が比較的多く見られるのも「많다」の単語結合の特徴の 1 つである。また【身体名詞】の X は、全体的には頻度が低くないが、「X가 많은 M」の構造に比較的好く現れるという特徴を示した。また【人間名詞】は「X가 많은 M」の構造では 28 例、11.7% しかなかったのに対し、「많은 X」の構造では 164 例、37.0% もあった。

次に「多い」が実現する 3 つの構造ごとに、結合する X の現れ方を見てみよう：

【表 5】日本語の「多い」と結合する X



	X가 많다 (NA型)		X가 많은 M (NAN型)		많은 X (AN型)	
抽象名詞	116例	28.2%	56例	51.4%	13例	65.0%
人間名詞	126例	30.6%	20例	18.3%	2例	10.0%
具体名詞	39例	9.5%	19例	17.4%	2例	10.0%
不完全名詞	128例	31.1%	10例	9.2%	3例	15.0%
身体名詞	3例	0.7%	4例	3.7%	0例	0.0%
	412例	100%	109例	100%	20例	100%

「多い」と結合する X の分布も、3 つの構造それぞれに若干異なる。【不完全名詞】は「X가 많다」の構造に 128 例、31.1% の高い頻度で現れたのが特徴的である。「多い X」によく現れた名詞句 X は【抽象名詞】であった。

こうした分布的な特徴を踏まえ、「NA 型」、「NAN 型」、「AN 型」それぞれの構造に現れた「많다」と「多い」の単語結合の特徴を見ていくことにする。記述の手順は、各構造ごとに現れた名詞句の頻度順とする。

4. 「NA 型」、「NAN 型」、「AN 型」の各構造別に見る「많다」と「多い」の単語結合

4.1 「NA 型」で現れる「많다」と「多い」

「Xが多い(NA型)」の構造における顕著な違いは、「**많다**」は【抽象名詞】と結合する場合が 312 例, 48.1%も現れたのに対し, 「**多い**」は【不完全名詞】と結合する場合が 128 例, 31.1%も現れた点である。

4.1.1 「**많다**」-「X가 많다」

4.1.1.1 【抽象名詞】가 많다

「【抽象名詞】가 많다」は「X가 많다」において最も多く現れたものである。「X가 많다」の全 648 例中, 「【抽象名詞】가 많다」は 312 例, 48.1%現れた。

現れた単語結合を, 頻度順で示すと, 以下の通りである²⁰ :

「일이 많다」(lit. 仕事が多い)	24 例
「고생이 많다」(lit. 苦勞が多い)	23 例
「나이가 많다」(lit. 年が多い)	23 例
「말이 많다」(lit. 言葉が多い)	17 例
「돈이 많다」(lit. お金が多い)	14 例
「시간이 많다」(lit. 時間が多い)	9 例
「수고가 많다」(lit. 苦勞が多い)	8 例
「관심이 많다」(lit. 関心が多い)	5 例

「일이 많다(lit. 仕事が多い)」は「일(仕事)が多い」以外にも, 「일」が不完全名詞のように用いられ, 「～することが多い」の形で用いられる場合が多い :

- (6) ~사춘기 아이들 감춰줘야 할 일이 얼마나 많아. (CE000079)
 ~思春期の子供って, 隠してあげなきゃいけないことがほんとに多いのよ.

「말이 많다(言葉が多い)」における「말(言葉)」は, 以下のように「口数」, 「噂」, 「文句」などの意味で用いられる :

- (7) 그 여자는 매일 새벽에 들어오기 때문에 동네에서 말이 많았다.
 彼女は毎日明け方に帰ってくるので, 近所で噂されることが多かった.

「돈이 많다(lit. お金が多い)」はしばしば「お金持ちだ」という意味で用いられる :

- (8) 그는 돈도 많았고, 사회적 지위도 괜찮았으며 행복하게 지냈다. (BEXX0008)
 彼はお金持ちで, 社会的地位も高く, 幸せな生活を送った.

次に「시간이 많다(時間が多い)」は修飾要素を伴わずに用いられると, 「暇だ」という意

²⁰ 出現頻度 5 例以上のみ。「일들」など複数を表す「-들(lit. 達)」が付いたものも含めて示すことにする。

味でよく用いられる：

(9) 나 요즘 시간 많어.

私，最近暇よ。

「나이가 많다 (年が多い)」は「年だ」，「年を取っている」の意味で用いられる。「한두 살 많다 (1, 2 才年上だ)」など具体的な数量を表わす名詞句とともに現れる場合も多い：

(10) 나는 사랑하기에는 너무 나이가 많아요. (CE000023)

私は恋するには年を取りすぎました。

「많다」と【抽象名詞】の下位範疇の分布的な特徴を見ると，特に「人間の感情・気持」と関わる名詞が多く出現した。用例から収集したものを表に示すと以下の通りである：

【表 6】X が【人間の感情・気持などに関わる名詞】で現れる「X 가 많다」

X 가 많다	(lit.)	意訳
걱정이 많다	心配が多い	心配性だ
겁이 많다	怖じ气が多い	臆病だ
결점이 많다	欠点が多い	欠点が多い
고생이 많다	苦勞が多い	苦勞が多い，ご苦勞だ
관심이 많다	関心が多い	すごく関心がある
눈물이 많다	涙が多い	涙もろい
미련이 많다	未練が多い	未練が多い，未練がましい
말이 많다	話が多い	おしゃべりだ
복이 많다	福が多い	福が多い
수고가 많다	苦勞が多い	苦勞が多い，ご苦勞だ
수줍음이 많다	恥じらいが多い	恥ずかしがりやだ
스트레스가 많다	ストレスが多い	ストレスが多い
실례가 많다	失礼が多い	大変失礼だ
애교가 많다	愛嬌が多い	とても愛嬌がある
열등감이 많다	劣等感が多い	劣等感が強い
욕심이 많다	欲心が多い	欲張りだ
웃음이 많다	笑いが多く	よく笑う
인정이 많다	人情が多い	情け深い
인기가 많다	人気が多く	すごく人気がある
잠이 많다	眠りが多く	よく寝る
한이 많다	恨みが多く	無念だ

上のグループに属する単語結合は，人の性情に関する表現が多く，「その性向が強い」という意味を持つ。名詞句 X は修飾要素を伴わないものが多く，慣用的に用いられるものが多い。「많다」の用法において非常に発達したものと見られるにもかかわらず，辞書の記述にほとんど反映されていないものが多い。

4.1.1.2 【人間名詞】가 많다

「【人間名詞】가 많다」は「X가 많다」において2番目に多く現れた型である。「X가 많다」の全648例中、「【人間名詞】가 많다」は138例、21.3%現れた。テキストに多く現れた単語結合は、「사람이 많다(人が多い)」である。現れた単語結合を頻度順で示すと以下の通りである²¹：

「사람이 많다」(lit. 人が多い)	69例
「여자가 많다」(lit. 女が多い)	6例
「학생이 많다」(lit. 学生が多い)	4例
「아이가 많다」(lit. 子供が多い)	3例
「친구가 많다」(lit. 友達が多い)	3例
「행인이 많다」(lit. 行人が多い)	3例

「사람이 많다(人が多い)」の型は「지하철에 사람이 많다(地下鉄に人が多い)」のように、単に数が多いことを表すほかにも、「사람(人)」を限定する修飾要素が付いて「～する人」、「ある類型の人」として現われる場合が多い。「사람이 많다(人が多い)」の全69例のうち、50例が修飾要素を伴って現れた：

- (11) 오늘 날씨가 좋아서 결혼하는 사람이 많겠다. (BEXX0002)
 今日は天気がよいので結婚する人多そうだ。

以下のように、有情物が所有するものとして表現される場合もある：

- (12) 그렇게나 애인이 많아? (BEXX0002)
 そんなに恋人が多いの？

4.1.1.3 【不完全名詞】가 많다

「X가 많다」の全648例中、「【不完全名詞】가 많다」は111例、17.1%現れた。「【不完全名詞】가 많다」の型に現れた単語結合を頻度順で示すと以下の通りである²²：

「것이 많다」(lit. もの、ことが多い)	40例
「때가 많다」(lit. 時が多い)	21例
「경우가 많다」(lit. 場合が多い)	18例
「점이 많다」(lit. 点が多い)	12例
「곳이 많다」(lit. ところが多い)	6例
「데가 많다」(lit. ところが多い)	4例
「적이 많다」(lit. ことが多い)	4例

最も多く現れたのは「것이 많다(もの、ことが多い)」である：

²¹ 出現頻度3例以上のみ。

²² 出現頻度4例以上のみ。

(13) 우리는 서로에 대해서 알아야 할 것이 아직도 너무 많다. (BEXX0002)

私たちはお互いのことについて知らなければならないことが、まだあまりにも多い。

유현경(1998)は補文性名詞を要求する度合いが高い形容詞のグループを「補文形容詞」とし、「많다」が属する所有形容詞のグループは「補文性名詞を要求する度合いが弱いグループ」と述べた。しかし、「많다」と結合するXに「것(もの)」、「때(時)」、「경우(場合)」などの不完全名詞がよく現れる点、「사람(人)」などの一般名詞にも修飾要素が現われる場合が多い点などから、「補文性の度合い」に関しての再考察が必要ではないかと考えられる。

4.1.1.4 【具体名詞】가 많다

「X가 많다」の全 648 例中、「【具体名詞】가 많다」は 79 例, 12.2%現れた。「【具体名詞】가 많다」に立つ【具体名詞】には様々な名詞が現れている²³ :

「 <u>물건이 많다</u> 」(lit. 物が多い)	5 例
「 <u>길이 많다</u> 」(lit. 道が多い)	3 例
「 <u>나무가 많다</u> 」(lit. 木が多い)	3 例
「 <u>책이 많다</u> 」(lit. 本が多い)	3 例

(14) 웬 책들이 이렇게 많아요? (BEXX0008)

(lit.)何でこんなに本が多いんですか。

4.1.1.5 【身体名詞】가 많다

「X가 많다」の全 648 例中、「【身体名詞】가 많다」は 8 例, 1.2%現れた。全 8 例現れた単語結合を頻度順で示すと、以下の通りである :

「 <u>눈이 많다</u> 」(lit. 目が多い)	2 例
「 <u>털이 많다</u> 」(lit. 毛が多い)	2 例
「 <u>다리가 많다</u> 」(lit. 足が多い)	1 例
「 <u>손이 많다</u> 」(lit. 手が多い)	1 例
「 <u>얼굴이 많다</u> 」(lit. 顔が多い)	1 例
「 <u>주름살이 많다</u> 」(lit. 皺が多い)	1 例

以下のように【身体名詞】が【人間名詞】のように用いられる場合もある :

(15) 보는 눈도 많은데 손을 잡으려니 썩스러웠다. (CE000029)

見ている目も多いのに、手をつなぐなんて照れくさかった。

²³ 出現頻度 3 例以上のみ。

4.1.2 「多い」-「Xが多い」

4.1.2.1 【不完全名詞】が多い

「【不完全名詞】が多い」は「Xが多い」において最も多く現れたものである。「Xが多い」の全412例中、「【不完全名詞】が多い」は128例、31.1%現れた。テキストに多く現れた単語結合は以下の通りである²⁴：

「ことが多い」	55例
「ほうが多い」	22例
「ものが多い」	19例
「のが多い」	13例
「場合が多い」	11例

「多い」は「 많다」に比べ、【不完全名詞】とよく結合し、「～することが多い」、「～するものが多い」などとしてよく現れる：

(16) 彼は唐突に話題を変えることが多い。(新橋)

こうした単語結合の違いは「X가 많다」に比べて「Xが多い」に見られる顕著な特徴である。

4.1.2.2 【人間名詞】が多い

「Xが多い」の全412例中、「【人間名詞】が多い」は126例、30.6%現れた。圧倒的に多く出現したのは、「人が多い」の27例、「者が多い」の26例である。テキストの中に現れた単語結合を頻度順で表すと、以下の通りである²⁵：

「人が多い」	27例
「者が多い」	26例
「学生が多い」	4例
「子が多い」	4例
「少年が多い」	4例

「人が多い」の「人」が、修飾要素なしで現れた用例は、1例もなかった。これは韓国語の「 많다」と異なる点であり、「人が多い」という単語結合は単に「混んでいる」と描写するよりは、「ある類型の人が多い」という用法でよく用いられるということが分かる²⁶：

(17) まあ、絵描きさんになるような人には変った人が多いから～ (エディプス)

²⁴ 出現頻度は10例以上のみ。

²⁵ 出現頻度4例以上のみ。

²⁶ 「地下鉄に人が多い」という文が不自然だと指摘した日本語の母語話者もいる。単に印象的な描写をする場合は「人が多い」と言うよりは「混んでいる」と表現する場合が多いという。韓国語の場合は「사람이 많네!(lit.人が多いね)」とよく用いられる。

4.1.2.3 【抽象名詞】が多い

「Xが多い」の全412例中、「【抽象名詞】が多い」は116例、28.2%現れた。「多い」と結合する【抽象名詞】には、「많다」とよく結合する「人間の感情・気持」と関わる名詞はあまり見られなかった。「【抽象名詞】が多い」の型としてテキストによく現れたのは以下の通りである²⁷：

「数が多い」	11例
「日が多い」	5例
「例が多い」	4例
「機会が多い」	3例
「仕事が多い」	3例
「夜が多い」	3例
「量が多い」	3例

「X가 많다」に比べ、「雨」，「雪」など現象を表す名詞も、よく現れた。「雨が多い」は「雨が降る回数」と「雨の量」をともに表せる：

(18) 前の年も雨が多くて～ (華岡青洲)

以下のように、慣用的に用いられる単語結合もある：

(19) 0型って気が多いらしいよ。(i)

(20) 次兄は、～つい先日帰国したばかりのせいか、陽気に口数が多い。(コンス)

4.1.2.4 【具体名詞】が多い

「Xが多い」の全412例中、「【具体名詞】が多い」は39例、9.5%現れた。「【具体名詞】が多い」には様々なものが現れた。2例以上出現した単語結合は、以下の通りである：

「家が多い」	2例
「荷物が多い」	2例
「店が多い」	2例

(21) 満開の桜が、いかにこの山道に多いかを～ (あすなろ)

4.1.2.5 【身体名詞】が多い

「Xが多い」の全412例中、「【身体名詞】が多い」は3例、0.7%現れた。【身体名詞】が【人間名詞】のように用いられたものがある：

²⁷ 出現頻度3例以上のみ。

「顔が多い」	2 例
「裸が多い」	1 例

(22) どこか間の抜けた顔が多い。(若き数学者)

4.2 「NAN 型」で現れる「 많다 」と「多い」

興味深いことに、この「NAN 型」のそれぞれの言語における出現率は韓国語の「 많다 」18.4%、日本語の「多い」20.1%と、ほぼ同様の比率を見せている。

4.2.1 「 많다 」—「X 가 많은 M」

4.2.1.1 【抽象名詞】가 많은 M

「X 가 많은 M」において圧倒的に多く出現したのは、180 例、75.0%の「【抽象名詞】가 많은 M」の型である。テキストによく現れたものは、以下の通りである²⁸：

「돈이 많은 M」(lit. お金が多い M)	21 例
「나이가 많은 M」(lit. 年が多い M)	17 例
「말이 많은 M」(lit. 言葉が多い M)	8 例
「관심이 많은 M」(lit. 関心が多い M)	5 例
「술이 많은 M」(lit. 量が多い M)	5 例
「한이 많은 M」(lit. 恨みが多い M)	4 例
「눈물이 많은 M」(lit. 涙が多い M)	3 例
「사연이 많은 M」(lit. 事情が多い M)	3 例
「왕래가 많은 M」(lit. 往来が多い M)	3 例
「욕심이 많은 M」(lit. 欲が多い M)	3 例
「호기심이 많은 M」(lit. 好奇心が多い M)	3 例

テキストに多く現れた単語結合は、「돈이 많은 M(lit. お金が多い M)」、「나이가 많은 M(lit. 年が多い M)」である。これらは「【抽象名詞】가 많다」の型ではそれぞれ 5 位、3 位に現れたものであるが、「【抽象名詞】가 많은 M」の型においてはより多く出現した。

head noun となる M に立つ名詞には、【人間名詞】が立つものが多かった。M に立つ名詞の頻度は以下の通りである：

① 【人間名詞】	114 例
② 【不完全名詞】	68 例
③ 【具体名詞】	24 例
④ 【抽象名詞】	20 例
⑤ 【身体名詞】	14 例

単語結合ごとに M の現れ方を見てみると、「X 가 많은 M」の構造に現れる「돈이 많다(lit. お金が多い)」、「나이가 많다(lit. 年が多い)」は「돈이 많은 【人間名詞】(lit. お金が多い【人間名詞】)」、「나이가 많은 【人間名詞】(lit. 年が多い【人間名詞】)」という単語結合を成して現れやすいと言えよう：

²⁸ 出現頻度 3 例以上のみ。

「돈이 많은 M」全 21 例中, M に【人間名詞】が立つ場合が 19 例.
 「나이가 많은 M」全 17 例中, M に【人間名詞】が立つ場合が 16 例.

更に, 「X 가 많은 M」の X の全体的な現れ方を見ると, X に【人間の感情・気持と関わる抽象名詞】が現れる場合が圧倒的に多い. そのとき, head noun となる M は【人間名詞】, 特に「사람(人)」という名詞が圧倒的に多く現れる. 「X 가 많은 M」の構造における「X 가 많다(X が多い)」の単語結合は, 一つのかたまりとして head noun となる【人間名詞】の特徴を限定する修飾的要素となるのである:

- (23) 그녀가 원하는 것이라면 뭐든지 소유하고 마는 욕심 많은 여자요.
 自分がほしいものは何でも所有してしまう欲張りな女よ. (BEXX0002)

4.2.1.2 【人間名詞】가 많은 M

「【人間名詞】가 많은 M」は「X 가 많은 M」の全 240 例中 28 例, 11.7%である. 最も多く現れた単語結合は, 「사람이 많은 M」が 8 例であった. ところが, 「【人間名詞】가 많은 M」の M に立つ要素としてはムード形式でよく使われる【不完全名詞】が多く現れ, 述語用法に近い用法となっている場合が多い. こうした観点が許されるなら, 「【人間名詞】가 많다」の単語結合は「X 가 많다」の構造ではよく現れるが, 「X 가 많은 M」の構造では現れにくいと言ってよいであろう²⁹:

- (24) 제법 손님이 많은 모양이었다. (CE000020)
 結構お客さんが多いらしかった.

4.2.1.3 【身体名詞】가 많은 M

「X 가 많은 M」の全 240 例中, 「【身体名詞】가 많은 M」は 13 例, 5.4%である. 「흰자위가 많은 M (lit. 白目が多い M)」が最も多い 5 例現れ, 「주름살이 많은 M (皺が多い M)」も 3 例現れた. M としては【身体名詞】, 【人間名詞】などがよく現れた:

- (25) 해숙이 흰자위 많은 눈을 내리깔면서 말했다. (BEXX0009)
 ヘスクが三白眼を伏せながら言った.

4.2.1.4 【具体名詞】가 많은 M

「X 가 많은 M」の全 240 例中, 「【具体名詞】가 많은 M」は 10 例, 4.2%しか現れていない:

²⁹ 「사람(人)」以外に 2 例以上出現した X は「과부(やもめ)」のみである.

(26) 호남지방은 유난히도 섬이 많은 바다를 배경으로 삼고 있었다. (BEXX0009)
湖南地方はとりわけ島の多い海を背景としていた.

4.2.1.5 【不完全名詞】가 많은 M

「X가 많은 M」の中、「【不完全名詞】가 많은 M」も9例, 3.8%しか現れていない. この中, 8例が「것이 많은 M(ことが多いM)」で現れた:

(27) 이 섬에서 제일 나이가 많고~아는 것도 많은 사람이에요. (BEXX0020)
この島で一番年で~知っていることも多い人ですよ.

4.2.2 「多い」-「Xが多いM」

「Xが多いM」の構造では, 日本語文法でいう, いわゆる「ガノ可変」によって, 「起伏の多い住宅街」の「起伏の」ように助詞の「の」が付いたものが多く現れたが, ここでは「Xが多いM」の形で代表させて論じることにする. 助詞の現れ方の詳細については5.1を参照されたい.

4.2.2.1 【抽象名詞】が多いM

「【抽象名詞】が多いM」は「Xが多いM」全109例中, 56例, 51.4%であった. 「起伏が多いM」の「起伏」は「Xが多い」の構造では1例しか出現しなかったものである³⁰:

「起伏が多いM」	7例
「数が多いM」	4例
「雪が多いM」	3例

(28) 神戸の山手特有の起伏の多い住宅街を走るような速さで歩いて~(孤高)

興味深いことに, 述語用法の「Xが多い」の構造ではあまり見られなかった「人の感情・気持」を表す名詞が, 比較的多く出現している:

(29) 恥の多い生涯を送って来ました. (人間失格)

4.2.2.2 【人間名詞】が多いM

「Xが多いM」の全109例中, 「【人間名詞】が多いM」は20例, 18.3%現れた. その中で「人が多いM」が2例現れた:

(30) 男の独身社員が多い会社には~(新橋)

³⁰ 出現頻度3例以上のみ.

4.2.2.3 【具体名詞】が多いM

「Xが多いM」の全109例中、「【具体名詞】が多いM」は19例、17.4%現れた：

(31) この岩の多い海岸を通ることが～（点と線）

4.2.2.4 【不完全名詞】が多いM

「Xが多いM」の全109例中、「【不完全名詞】が多いM」は、10例、9.2%であった。述語用法の「Xが多い」のXとしては128例、31.1%で最も多かったことと対照的である。「ことが多いM」の型が6例出現した：

(32) ～外部電話の最初の取りつぎをやることの多かった庶務担当のブロンディは～
（新橋）

4.2.2.5 【身体名詞】が多いM

「Xが多いM」の全109例中、「【身体名詞】が多いM」は4例、3.7%であった。「皺が多いM」が3例、「白眼が多い」が1例出現した：

(33) ～皺の多い寝た感じの顔の奥からその男の昔の顔が～（植物群）

4.3 「AN型」で現れる「 많다」と「多い」

この「多いX」という「AN型」は、「NAN型」の比率が日韓でほぼ同様であったのに対し、韓国語の「 많다」が443例、33.3%、日本語の「多い」がわずか20例、3.7%と、著しい違いを見せている。日本語では「多いX」という構造で用いられるのは、極めて稀なのである。

4.3.1 「 많다」－「 많은 X」

4.3.1.1 많은【抽象名詞】

「 많은 X」の全443例中、「 많은【抽象名詞】」は173例、39.1%で最も多く現れた。テキストの中に多く現れた単語結合を頻度順で表すと、以下の通りである³¹：

「많은 돈」(lit. 多い金)	16例
「많은 시간」(lit. 多い時間)	14例
「많은 일」(lit. 多い仕事)	9例
「많은 말」(lit. 多い言葉)	5例
「많은 생각」(lit. 多い考え)	5例

「돈(お金)」、「시간(時間)」は述語用法の「X가 많다」の構造ではそれぞれ5位、6位占める名詞であったが、「많은 X」の構造では1位、2位を占めた：

³¹ 出現頻度5例以上のみ。

(34) ~ 꽤 많은 돈을 벌었다고 한다. (BEXX0017)

~相当なお金を稼いだそうである。

興味深いことに、述語用法の「X 가 많다」, 連体述語用法「X 가 많은 M」の X として多く現れた「人の感情・気持を表す名詞」が、「많은 X」の X としてはあまり現れていない。

寺村秀夫(1982)を参照すると、「名詞+格助詞+用言」の一体化の度合いをテストする方法の1つとして、通常の「補語+述語」の結びつきを「述語の連体形+補語の名詞」の連体修飾構造とする方法を提案している。例えば、「名札をつける→つける名札」に比べ、「腹を立てた→?立てた腹」の場合のように、意味不明の修飾構造ができてしまうものを「一体化の度の進んだもの」と見ている。

こうした観点からすると、「X 가 많다」の X としては多く出現した「人の感情・気持を表す名詞」が「많은 X」の X としては現れにくいのは、「X 가 많다」の単語結合に「一体化の度の進んだもの」が多いためだと考えられる。

4.3.1.2 많은【人間名詞】

「많은 X」の全 443 例中、「많은【人間名詞】」は 164 例, 37.0%現れた。「많은 사람(lit. 多い人)」は圧倒的に高い頻度を示した³² :

「많은 사람」(lit. 多い人)	85 例
「많은 아이」(lit. 多い子供)	6 例
「많은 여자」(lit. 多い女)	6 例
「많은 선원」(lit. 多い船員)	4 例
「많은 남자」(lit. 多い男)	3 例

以下のような「많은 사람(lit. 多い人)」はそれぞれ日本語の「たくさんの人」、「多くの人」に対応する :

(35) 작은 객선에는 많은 사람이 타고 있었다. (BEXX0024)

小さな客船にはたくさんの人が乗っていた。

(36) 많은 사람은 앞에 굴러오는 기회나 복을 잡지 못하고 놓쳐버리고 만다.

(DENA006)

多く人は自分の前に転がってくる機会や副をつかまえられず逃してしまう。

4.3.1.3 많은【具体名詞】

「많은 X」の全 443 例中、「많은【具体名詞】」は 66 例, 14.9%現れた。「많은【具体名詞】」の【具体名詞】には様々な名詞が現れた。その中で「많은 책(多い本)」が 5 例現れた :

³² 出現頻度 3 例以上のみ。

(37) 그렇게 많은 책을 읽은 것일까? (BEXX0008)

そんなにたくさんの本を読んだのだろうか.

4.3.1.4 많은【不完全名詞】

「많은 X」の全 443 例中, 「많은【不完全名詞】」は 35 例, 7.9%現れた. 「많은【不完全名詞】」で多く現れたのは「많은 것(多いもの)」32 例であった. 「많은 것(多いもの)」は「많은 X」の全用例からも 2 番目に高い分布を示したものである. 「많은 것(多いもの)」は 1 つの名詞のように一体化して用いられていると考えられる:

(38) 나는 이미 많은 것을 포기한 상태였다. (BEXX0002)

私はすでに多くのものを諦めた状態であった.

4.3.1.5 많은【身体名詞】

「많은 X」の全 443 例中, 「많은【身体名詞】」は 5 例, 1.1%現れた.³³ 調査したテキストには現れていないが, 「많은 주름살(lit. 多い皺)」なども可能である.

4.3.2 「多い」-「多いX」

「多いX」は「多い」の全 443 例のうち, わずか 20 例しか現われなかったため, 全ての X を提示する. なお「多い時」は副詞的修飾語を伴わずに現れる場合も多かったのに対して, 「多い兵」などほかの単語結合は, 「一番」, 「あまりにも」などの副詞的修飾語や「男たちに多い」のようにありかを示す名詞句を伴って現れている. 副詞的修飾語も併せて示す:³⁴

【表 7】「多いX」の出現様相(全 20 例)

多い X	数	多い X	数
多い時	7	(あまりにも)多い兵	1
(最も)多いの	1	(北河内に)多い蓮池	1
(一番)多いの	1	(一銭でも)多い賃金	1
多い方	1	(男たちに)多い名	1
(はるかに)多い人	1	(長崎に)多い狭い坂路	1
(一日ずつ)多い数	1	(はるかに)多い数字	1
(ずっと)多い富	1	(若い女性たちに)多い容貌の醜さ	1
		合計	20

(39) ~賭け始めたのだ. 多い時は, 一度に一〇ドルも賭けた. (若き数学者)

(40) ~万国共通で, 一番多いのが隣の答案をこっそり盗み見るといふ~(若き数学者)

(41) 攻撃に, あまりにも多い兵を一度に投入してしまったのだ. (コンス)

³³ X として現れたのは「얼굴(顔)」が 4 例, 「주근깨(そばかす)」が 1 例である.

³⁴ 森田良行(1989; 1996)を参照すると, 「体言に係わる場合, 連体形「多い~」のほかに「多くの~」の形もある. 「多い」は「多いときには~」「多いほうがいい」のように「とき, ばあい, うち, ほう, こと, の, はず」などの形式名詞を続ける場合によく用いられる. 普通名詞が続く場合は「多くの人」「多くの国」と「多くの」が用いられる」と述べられている.

日本語の「多い」単独では連体修飾用法がほとんど現れず、副詞的修飾語などがあってはじめて連体修飾用法となるという点は、単に語彙論的対照からは得ることのできない、日韓の決定的な違いである。

4.4 「 많다 」と「多い」の3つの構造に現れる名詞の分布

同じ名詞が、「NA型」、「NAN型」、「AN型」のすべて出現する場合もあり、1回しか出現しないものもある。それぞれの構造に現れやすい単語結合の型を考察するため、表で表してみた。名詞分類とは関係なしに、実際に現れた名詞そのものを頻度順で表してみた：

【表8】「 많다 」と「多い」それぞれと結合する高頻度の名詞 X

		X가 많다	数	X가 많은 M	数	많은 X	数
「 많다 」 と結合 する X	1	사람▲▲▲ ³⁵	69	돈▲▲▲	21	사람▲▲▲	85
	2	것▲▲▲	40	나이▲▲	17	것▲▲▲	32
	3	일▲▲	24	것▲▲▲	8	돈▲▲▲	16
	4	고생	23	말▲▲▲	8	시간	14
	5	나이▲▲	23	사람▲▲▲	8	일▲▲	9
	6	때	21	관심	5	아이	6
	7	경우	18	술	5	여자	6
	8	말▲▲▲	17	원자위	5	말▲▲▲	5
	9	돈▲▲▲	14	한	4	생각	5
	10	점	12	눈물	3	책	5
		Xが多い	数	Xが多い M	数	多い X	数
「多い」 と結合 する X	1	こと▲▲	55	起伏	7	時	7
	2	人▲▲	27	こと▲▲	5	の▲▲	2
	3	者	26	数 ▲▲	4	(など)	
	4	ほう	22	雪	3		
	5	もの	19	皺	3		
	6	の▲▲	13	欠点	2		
	7	数▲▲	11	人▲▲	2		
	8	場合	11	恥	2		
	9	日	5	問題	2		
	10	ところ	4	(など)			

「 많다 」, 「多い」それぞれと結合する名詞句の頻度順は、3つの構造ごとに異なることが分かる。特に「NA型」と「NAN型」を比べてみると、「NA型」の構造を好んで現れる単語結合と「NAN型」の構造を好んで現れる単語結合が見られる。つまり、ある特定の構造を好んで現れる単語結合が存在するのである。例えば、「사람(人)」という名詞句は「사람이 많다(lit. 人が多い)」、「많은 사람(lit. 多い人)」のように「Xが多い」、「多い X」の構造により多く出現、「돈(お金)」、「나이(年)」などの名詞句は「돈이 많은 사람(lit. お金の多い人)」、「나이가 많은 여자(lit. 年の多い女)」のように「Xが多い M」の構造を好んで出現した。

「多い」の場合も「人」という名詞句は「人が多い」のように「Xが多い」の構造を、「起伏」という名詞句は「起伏の多い地形」のように「Xが多い M」の構造を好んで出現した。「 많다 」

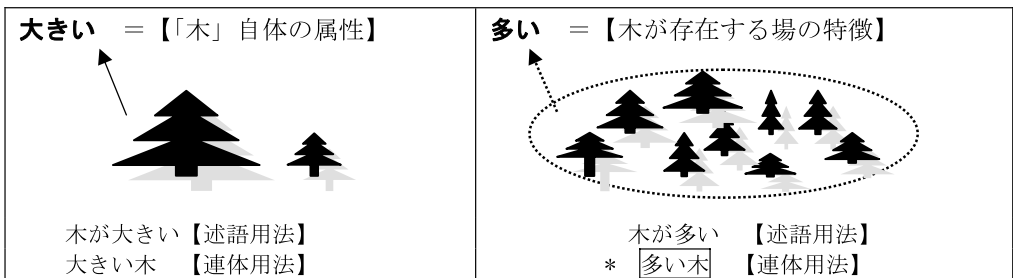
³⁵ 「NA型」「NAN型」「AN型」に全部現れたものは▲▲▲、2つの型に現れたものは▲▲印をつけた。「多い」の場合は、「AN型」は出現頻度1のものは表には示していない。

と「多い」ともに【身体名詞】のXは「Xが多いM」の構造を好んで現れたのも特徴である。既存の研究ではNAN型にあまり注目してこなかったが、このように単語結合と文の構造とは一連の相関性があるのである。語彙の意味と用法を論じるとき、実際に文中で実現する構造の中から単語結合の型を見ることが、いかに重要であるかを示唆してくれる。

4.5 述語用法と連体用法の側面から見た「 많다 」と「多い」の意味

「 많다 」と「多い」は意味的に「存在の表現」³⁶というカテゴリーに属するものであるため、形状・特徴を描く形容詞とは異なる側面を持つ。形容詞は「印象描写」と「範囲限定の品定め(characteristic)」の2つの用法的側面を持つ。³⁷特に、形状・特徴を描く形容詞は、連体修飾的に用いられたときは被修飾語である名詞の、他の同種のものとは比べての特徴を述べるのに(つまり範囲限定の品定め)に使われるのが普通である。形状・特徴を描く形容詞である「大きい」の用法と「多い」を比べてみよう：

【表 9】 形状・特徴を描く形容詞「大きい」と存在を表す形容詞「多い」



「木が大きい」、「木が多い」というのは問題ないが、「大きい木」とは言えるのに「多い木」とは言いにくい。「大きい木」のように形状・特徴を描く形容詞は連体修飾的に用いられると、「大きい」の「範囲限定の品定め」の働きがより目立つようになる。しかし、「多い」は形状・特徴を描く形容詞ではないため、「多い木」単独では用いられにくい。しかし、前章にも述べたように、「あまりにも多い木」、「日本に多い木」などのように副詞的修飾語を伴うと、「範囲限定の品定め」の働きをすることになり、「多いX」の構造が用いられるのである。ところが、こうした日本語の「多い」に対し、韓国語の「 많다 」は「많은 사람(lit. 多い人)」「많은 일(lit. 多い仕事)」など、単独で多様な連体修飾的用法で用いられる。「 많다 」は「物事の数、量がたくさんある」という意味的な側面においては「多い」と類似性を持つのに、文中での振舞いは「多い」と大きな違いを持つのである。

寺村秀夫(1991)は「多い映画館」とは用いられにくい点を挙げ、「多い」を特異な形容詞

³⁶ 유현경(1998)の「所有形容詞」: 다분하다, 풍부하다, 없다, 있다, 드물다, 수두룩하다, 허다하다など
寺村秀夫(1982)の「存在の表現」: ある, ない, 少ないなど

³⁷ 寺村秀夫(1991)参照。

と扱っている。寺村秀夫の指摘の通り、いわゆる「存在の表現」に属する形容詞は連体修飾用法で用いられにくいとすれば「多い」に比べて、連体修飾用法が非常に発達した韓国語の「많다」こそ特異な形容詞と言えるだろう。

5. その他の形態・統辞論的要素の現れ方

5.1 Xに付く助詞の現れ方

「X가 많다(Xが多い)」、「X가 많은 M(Xが多いM)」のXに立つ名詞句に付く「-가」など、助詞の現れ方を実際に調べた結果は以下の通りである：

【表 10】「X가 많다」、「X가 많은 M」のXに付く助詞³⁸

X가 많다	-가(467), -도(76), -는(53), -나(6), -만(4), -야(3), -란(2), -의(2), -까지(1) -로는(1), -라도(1)	φ(32)	648例
X가 많은 M	-가(129)-도(16)-는(11)-나(2)	φ(82)	240例

助詞がφ、即ち助詞の現れないものを見ると、「X가 많다(Xが多い)」では全648例中32例、4.9%のみが「X 많다(X多い)」という助詞φの形で現れたのに対し、「X가 많은 M(Xが多いM)」では全240例中「X 많은 M(X多いM)」という形で、つまり助詞φが82例、34.2%も現れたのが特徴的である。

「X가 많다(Xが多い)」では助詞がφの32例中、「고생이 많다(苦勞が多い)」が10例も現れ、全てが小説などの中に現れる会話体であった。次に「나이가 많다(年が多い)」4例、「돈이 많다(お金が多い)」3例、「수고가 많다(苦勞が多い)」3例、「실례가 많다(失礼が多い)」2例が現れ、ほとんどの用例が会話体であった：

(42) 그동안 고생 φ 많았어요. (CE000029)

この間ご苦勞さまでした。

「X가 많은 M(Xが多いM)」では助詞がφの82例中、「돈이 많은 M(お金が多いM)」18例、「나이가 많은 M(年が多いM)」12例で圧倒的に多く現れ、「흰자위가 많은 M(白目が多いM)」5例などが現れた。「X가 많다(Xが多い)」の構造におけるXより、「X가 많은 M(Xが多いM)」の構造におけるXの方が助詞φで現れやすいようである。

(43) 돈 φ 많은 사람이 내는 거지, 응? (BEXX0001)

お金持ちが払うもんよ、ね？

(44) 나이 φ 많은 사람이 참으라. (BEXX0024)

³⁸ 異形態がある場合は母音の後に付く形態を代表形とした。

年上の人が我慢せよ.

他の助詞の現れ方を総括すると、「X가 많다(Xが多い)」、「X가 많은 M(Xが多い M)」双方ともに助詞「-가(が)」が最も多く現れており、次に「-도(も)」や「-는(は)」がある。³⁹

次に「多い」の場合を調べた結果は、以下の通りである：

【表 11】「Xが多い」「Xが多い M」の X に付く助詞

Xが多い	-가(325), -는(40), -도(38), -ばかり(2), -의(2), -だって(1), -のみが(1), -では(1), -こそ(1)	φ(1)	412例
Xが多い M	-의(86), -가(17), -のみ(1)	φ(5)	109例

助詞の現れないものを見ると、「多い」と結合する X は、「많다」より助詞 φ で現れる場合が少なかった。「多い」と「많다」との顕著な違いと言えよう。

「Xが多い M」の構造では、日本語文法のいわゆる「ガノ可変」によって、「岩の多い海岸」の「岩の」のように、実際には「Xの多い M」の形で現れる場合が多かった。用例には「Xの」が 95 例も現れ、「Xが」はわずか 17 例であった。

5.2 副詞的修飾語の現れ方

「많다」と共起する副詞的修飾語を調べた結果は、以下の通りである：

【表 12】「많다」と共起する副詞的修飾語(出現数 3 例以上のみ)

「NA 型」	너무(31), 얼마나(20), 더(17), 그리(13), 너무나(8), 참(8), 무척(7), 꽤(6), 수없이(6), 워낙(6), 이렇게(6), 유난히(5), 참으로(5), 아무리(5), 점점(4), 늘(3), 아주(3), 이리(3), 제법(3), 제일(3), 지나치게(3), 훨씬(3)など
「NAN 型」	유난히(6), 더(5), 그렇게(4), 제일(4), 그리(3), 꽤(3), 너무나(3), 제일(3)など
「AN 型」	그(47), 얼마나(27), 더(25), 그렇게나(11), 그렇게(10), 너무나(9), 가장(7), 너무나(7), 수없이(7), 꽤(6), 좀더(4), 참으로(4), 실로(3), 이(3)など

3つの構造ごとに副詞的修飾語の現れ方は異なることが分かる。「NA 型」、「NAN 型」、「AN 型」の全ての型に比較的多く出現したものは「더(lit. もっと)」、「너무(lit. あまりにも)」などである。興味深いことに、「AN 型」に圧倒的に多く現れた「그(lit. その)」は、元來は冠形詞であるが、「많다」の「AN 型」において圧倒的に多く現れる特徴を示した。「그 많은 돈(lit. その多いお金)」の「그(その)」は「その」、「あの」の意味ではなく、「そんなに」の意味を持ち、「많다」を修飾する副詞的用法で用いられていると考えられる。⁴⁰

「NAN 型」には副詞的修飾語があまり現れず、「AN 型」の方に副詞的修飾語が多く現れたこ

³⁹ そもそも連体節の内部には助詞「-는(は)」は現れない。野間秀樹(2002a)参照。本稿では形式的な head noun となる「것」なども含めたため、11 例が現れたのである。「악연은 많은 벌인 모양입니다(腐れ縁は続くものようです)」の「법」はムード形式の要素となり、実は連体節というよりは述語用法に近い特徴を持つ。

⁴⁰ こうした「그(lit. その)」の副詞的用法は、연세대학교 언어정보개발원 편(1998), 국립국어연구원(1999)などの辞書に掲載されていない。反映されるべきである。

とから、「AN型」の方が「NAN型」より述語用法的な側面を持つものと考えられる。

次に「多い」と共起する副詞的修飾語を調べた結果は以下の通りである：

【表 13】「多い」と共起する副詞的修飾語(出現数 1 例以上)

「NA型」	圧倒的に(3), あまりにも(3), 一番(3), はるかに(3), かなり(2), 非常に(2), 最も(2), あまりに(2), あまり(1)など
「NAN型」	最も(4), あまりにも(2), 意外に(2), いろいろ(2), なんと(2), かなり(1), あまり(1), ことに(1), これほど(1), こんな(1), はるかに(1), ひどく(1)など
「AN型」	ずっと(2), あまりにも(1), はるかに(1), 一番(1)など

「多い」は、「 많다」に比べて全体的に副詞的修飾語の出現頻度が低い。「AN型」、即ち「多い X」の構造は、例えば「多い兵」のみは用いられにくい、以下のように副詞的修飾語を伴うと用いられる：

(45) 攻撃に, あまりにも多い兵を一度に投入してしまったのだ. (コンス)

5.3 「 많다」, 「多い」構文における X 以外の名詞句の現れ方

「X가 많다」構文に現れる X 以外の名詞句の現れ方を見てみる：

- (A) 이 학교는 나무가 많다. この学校は木が多い。
 (B) 나는 돈이 많다. 私はお金が多い。
 (C) 언어학자에는 천재가 많다. 言語学者には天才が多い。
 (D) 오늘은 날씨가 좋아서 결혼하는 사람이 많겠다.
 今日は天気がよくて結婚する人が多いと思う。

(A)の「학교는(学校は)」, (B)の「나는(私は)」はそれぞれ「나무(木)」, 「돈(お金)」が存在する場となるものであり, (C)の「언어학자에는(言語学者には)」は「천재(天才)」という X が属する「全体集合」となる場であり, 文中に比較的明示的に現れている。ところが, (D)のような場合は明示的に現れず, 前提となる事柄が「오늘은 날씨가 좋아서(今日は天気がよいので)」で表されている。유현경(1998)では, 「 많다」の基本構造を「NP1-에(に) NP2-가(が) Adj」とし, 「NP1-에(に)」は「NP1-가(が)」と交替しうると述べている。更に, 「NP1-에(に)」を主語と見做している。⁴¹ しかし, 「 많다」構文に現れる「NP1-에(に)」という要素はそもそも明示的に現れない場合が多く, 「NP1-에(に)」の存在を把握しにくい場合も多い。「NP1-에(に)」を主語と見做すか見做さないかという問題に関しては, 検討が必要である。

(A)の「학교는(学校は)」, (B)の「나는(私は)」, (C)の「언어학자에는(言語学者には)」

⁴¹ 文の主成分を論じた이홍식(1990)では「나는 돈이 많다(lit. 私はお金が多い)」の「돈이(お金が)」を主語と見做し, 「나는(私は)」は「主題一言及構造」の「主題」と見ている。主語の問題は, 更なる検討が必要とされる問題であるため, それに関する議論は今後の課題にしておきたい。

などのように文中に明示的に現れている要素を X₀ とし、テキストに X₀ が明示的に現れている場合の頻度を調べた：

【表 14】 「 많다 」 と 「多い」 構文における X₀ の現れ方 (「X 가 많다」, 「X が多い」)

X ₀	많다		多い	
X ₀ が明示的に現れている	237 例	36.6%	241 例	58.5%
X ₀ が明示的に現れていない	411 例	63.4%	171 例	41.5%
	648 例	100%	412 例	100%

「多い」の方が、「 많다 」より「明示的に現れている X₀」の頻度が高い。興味深いことに、「多い」は、「 많다 」に比べ、「生徒の中には～する者が多い」、「少年達には～する子が多い」、「データというものは～ものが多い」などのように X が属する全体集合となる場の X₀ が比較的多く見られた。それに対し、「 많다 」は X₀ に、【人間名詞】がよく現れ、「X₀ が X を多く所有する」という用法でよく用いられる傾向を示した。⁴²

明示的に現れる要素 X₀ の格標識の問題に若干触れると、유현경(1998)では「 많다 」構文の基本構造を「N1-에 (に) N2-가 (が) Adj」とし、「N1-가 (が)」への交替が可能であると述べているが、そもそも格標識「-에 (に)」で現れにくい場合もある：

(46) 내가 (→?나에게) 얼마나 네 시에 관심이 많았는지～ (BEXX0025)

私がどんなにあなたの詩に関心があったのか～

(47) 내가 (→?나에게) 나이가 많다고～ (CE000029)

私が年取っていると～

「 많다 」, 「多い」の構文は「X₀」が明示的に現れる場合は、基本的に「X₀ に X が多い(例：公園に木が多い)」の構造でよく現れる。テキストに現れた「X₀」の位置を調べた結果、X が X₀ の前に現れた「X 가 X₀ 에 많다」は 2 例しか現れなかったが、「X が X₀ に多い」は 7 例も現れた。

また X, X₀ 以外に共起する名詞句の現れ方を考察すると、「 많다 」構文においては、以下のように、X, X₀ 以外にもう 1 つの名詞句が必須成分とされる場合がある：

(48) 내가 얼마나 네 시에 관심이 많았는지～ (BEXX0025)

(私がどんなにあなたの詩に関心があったのか～)

また、「 많다 」と「多い」は形容詞の用法の特徴の 1 つである「程度の相対的表現」にも用いられる。その場合は、比較の対象となるものは、例えば「生徒より先生が多い」のように主に格助詞「-より」で表示されて現れやすい。そこで「X 가 많다」と「X が多い」に現れる

⁴² 今回正確な頻度を示すことはできないため、分布的な特徴のみ述べておく。

「-より名詞句」と「-보다(より)名詞句」の出現頻度を調べてみた結果、「Xが多い」には全412例中35例, 8.5%現れたのに対し、「X가 많다」には全648例中32例, 4.9%現れ、「Xが多い」における「-より名詞句」の頻度が若干高いことが分かった。「Xが多い」の方が「X가 많다」より「程度の相対的表現」にわずかだが多く用いられると言えよう。

5.4 「X₀に多いM」の構造を好む「多い」

用例を観察した結果、「多い」は「많다」に比べ、「X₀に多いM」の構造を好む傾向が見られた。計量的な分析に用いたテキストには、「X₀に多いM」は4例見られたが、「X₀에 많은 M」は1例も現れなかった。

(49) ガブリエレという名はトレヴィザン家の男たちに多い名なので～ (コンス)

インターネットの検索サイトで抽出した用例を合わせて検討した結果、「多い」は「많다」に比べて「X₀に多いM」という構造で現れやすいと特徴を示した：

(50) 弁護士に多い血液型は～(i)

(51) スキーに多い怪我は～(i)

「多い」に対し、「X₀에 많은 M」は、現在形の「많은」の形では現れにくいだが、過去形の連体形「많던(多かった)」⁴³が用いられると「X₀에 많던 M(X₀に多かったM)」の構造で現れやすくなる傾向が見られた⁴⁴：

(52) 집안에 많던 수많은 우산 중에 왜 그리도 제대로 된 우산이 없었던지(i)
家にたくさんあった傘の中に、なんでまともな傘がなかったのか～
(→? 집안에 많은 수많은 우산 중에～)

(53) 집에 많던 그 우유도 오늘따라 한방울도 없었다. (i)
家にたくさんあった牛乳も、今日に限って一滴もなかった。
(→? 집에 많은 그 우유도～)

6. まとめ

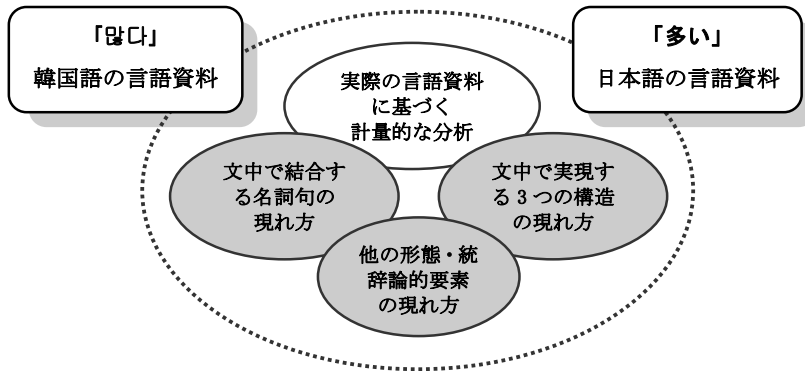
本稿は実際の用例からの計量的な分析に基づき、韓国語の「많다」と日本語の「多い」の文中でのありようそのものを対照しようと努めた。本稿における対照の枠組みを示すと以

⁴³ 野間秀樹(1997a)で連体形「하던」は経験形、「했던」は過去経験形、「했었던」は大過去形とされている。

⁴⁴ 今回は傾向を示すことに止めるが、いわゆる関係化(relativization)の構造のhead nounとなる名詞との関連性など、さらなる検討が必要であろう。

下の通りである：

統辞論的観点から見た 「 많다 」と「 多い 」の対照の枠組み



本稿は、「 많다 」と「 多い 」という2つの単語の文の中での具体的な現れ方に着目し、「 많다 」と「 多い 」が文中で実現する構造を「Xが多い(NA型)」、「Xが多いM(NAN型)」、「多いX(AN型)」の3つに分けて考察した。更に、こうした構造と、「 많다 」と「 多い 」それぞれと共起する名詞句の現れ方との関連性にも注目しつつ、語彙の意味的側面と統辞論的側面を描き出すことに努めた。本稿で明らかになった主要な点は以下の通りである：

(1) 文中に現れる「 많다 」と「 多い 」の単語結合の型

顕著な違いは、「 많다 」は【抽象名詞】と結合して慣用的に用いられる単語結合が多いのに対し、「 多い 」は【不完全名詞】と結合して用いられる場合が多い点である。

(2) 「 많다 」と「 多い 」が文中で実現する3つの構造(「NA型」、「NAN型」、「AN型」)の現れ方

顕著な違いは、「 많다 」においては433例、33.3%を占める「 많은 X」、即ち「AN型」が、「 多い 」においてはわずか20例、3.7%に過ぎない点である。「 多い 」は「多い木」といった構造では現れにくいだが、「あまりにも多い木」などの副詞的修飾語や「学校に多い木」のようにありかを示す名詞句と共起すると、用いられるようになる。

(3) それぞれの構造と単語結合との相関性

「 많다 」と「 多い 」が実現する3つの構造とそれぞれと結合する名詞句Xの現れ方は、一連の相関性が見られる。ある構造を好んで現れる単語結合が存在するのである。例えば、「사람(人)」という名詞句は「사람이 많다(lit.人が多い)」、「많은 사람(lit.多い人)」のように「Xが多い」、「多いX」の構造により多く出現、「돈(お金)」、「나

이(年)」などの名詞句は「돈이 많은 사람(lit. お金の多い人)」、「나이가 많은 여자(lit. 年の多い女)」のように「Xが多いM」の構造を好んで出現した。

「多い」の場合も「人」という名詞句は「人が多い」のように「Xが多い」の構造に多く出現し、「起伏」という名詞句は「起伏の多い地形」のように「Xが多いM」の構造を好んで出現した。「많다」と「多い」ともに【身体名詞】のXは「Xが多いM」の構造を好んで現れたのも特徴的である。

(4) その他の形態・統辞論的特徴

「Xが多い」、「Xが多いM」における「Xが」の「-が」など、助詞の現れ方を調べた結果、「많다」は「多い」に比べて「Xφ 많은 M」のごとく、助詞が現れない場合が多かった。これは顕著な違いである。特に、「많다」は「돈φ 많은 사람」のように、「Xが多いM」、即ち「NAN型」の構造において82例、34.2%の高い頻度を示した。また用例を観察した結果、「多い」は「많다」に比べ、「弁護士に多い血液型」のように「～に多い～」の構造を好む傾向が見られた。その他の幾つかの統辞論的特徴を照らし合わせた。

語彙の対照は形態、統辞、意味などそれぞれの閉じた分野でのみなされるべきものではなく、文という構造からのより総合的な記述がなされるべきであろう。本稿は、語彙の対照的な記述における方法論的な試みの第一歩にすぎない。新たな対照語彙論を構築するためには、さらなる精密化が必要であり、細部においても考察すべき点が多く残っている。今後さらに検討を加え、本稿の記述の不備を補っていきたい。単に単語のみを対照するのではなく、単語の実際の文の中でのありようを見ることで、より深い語彙の対照へと進むことができるであろう。対照語彙論というものが可能であるとしたら、単にそれぞれの語彙を意味論的な立場から記述して対照するのではなく、それぞれの単語の実際の文の中でのありようをこそ対照せねばならない。

■参考文献

(1) 韓国語で書かれた文献

- 고석주(1996) ‘있다’ 구문에 대한 연구’ “국어문법의 탐구Ⅲ” 서울: 태학사
국립국어연구원(1999) “표준국어대사전” 서울: 두산동아
권재일(1985) “국어의 복합문 구성 연구” 서울: 집문당
남기심(1996) “국어문법의 탐구 1” 서울: 태학사
노마히데키[野間秀樹](2002a) “한국어 어휘와 문법의 상관구조” 서울: 태학사
노마히데키[野間秀樹](2002b) ‘단어결합론의 심화를 위하여’ “국어학” 39 서울: 국어학회
연세대학교 언어정보개발원 편(1998) “연세한국어사전” 서울: 두산동아
유현경(1998) “국어 형용사의 연구” 서울: 한국문화사
이홍식(1996) “국어 문장의 주성분 연구” 서울: 月印
趙義成(1997) ‘현대한국어의 단어결합에 대하여’ “朝鮮學報” 第163輯. 天理: 朝鮮学会

(2) 日本語で書かれた文献

- 安根姫(2004)「統辞論的観点から見た「타다」と「乗る」」東京外国語大学大学院修士論文
- 池上嘉彦(1975)『意味論』東京：大修館書店
- 梅田博之(1971)『現代朝鮮語基礎語彙集』東京：アジア・アフリカ言語文化研究所
- 梅田博之(1982a)「韓国語と日本語－対照研究の問題点」『日本語教育』48号 東京：日本語教育学会
- カトリーヌ・ガルニエ(1994)『日本語の複文構造』細川英雄・小出美河子訳 東京：ひつじ書房
- 菅野裕臣他(1988)『コスモス朝和辞典』東京：白水社
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向(verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯 天理：朝鮮学会
- 言語学研究会(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』東京：むぎ書房
- 国立国語研究所(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』東京：秀英出版
- 国立国語研究所(2000)『語彙の研究と教育(下)』東京：国立国語研究所
- 国立国語研究所(2002)『対照研究と日本語教育』日本語と外国語との対照研究X 東京：国立国語研究所
- 田窪行則編(1997)『日本語の名詞修飾表現』東京：くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第I巻』東京：くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 第II巻』東京：くろしお出版
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味 第III巻』東京：くろしお出版
- 仁田義雄(1980)『語彙論的統語論』東京：明治書院
- 仁田義雄(1998)「日本語文法における形容詞」『言語』Vol. 27 No. 3(318) 東京：大修館書店
- 野間秀樹(1997a)「朝鮮語と日本語の連体修飾節(冠形節)構造」『朝鮮文化研究』第4号, 東京：東京大学文学部朝鮮文化研究室
- 野間秀樹(1997b)「朝鮮語の文の構造について」『日本語と朝鮮語の対照研究IV』東京：くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子(2001)『現代形容詞用法辞典』東京：東京堂出版
- 益岡隆志(2000)『複文』新日本語文法選書2 東京：くろしお出版
- 松村明編(1995)『大辞林』第二版 東京：三省堂
- 南不二男(1998)『現代日本語文法の輪郭』東京：大修館書店
- 森田良行(1989; 1996)『基礎日本語辞典』東京：角川書店
- 森田良行(2002)『日本語文法の発想』東京：ひつじ書房
- 山岡政紀(2000)『日本語の述語と文機能』日本語研究叢書 東京：くろしお出版
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編, 小学館, 金星出版社共同編集(1993)『朝鮮語辞典』東京：小学館

(3) 英語で書かれた文献

- Kuno, S.(1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge: MIT Press
- Somers, H.L. (1987) *Valency and Case in Computational Linguistics*. Edinburgh University Press.

■用例を収集した言語資料

【韓国語】

- (1) 국립국어연구원(1999) 「21 세기 세종계획 균형말뭉치」 국어 기초자료 현대 국어 균형 말뭉치(国立国語研究院(1999)「21世紀世宗計画均衡コーパス」国語基礎資料現代国語均衡コーパス) [ファイル名で表示]
<<コーパスの構成>>
- ①문어(書きことば)(90%) ②순구어(純話しことば)(5%) ③준구어(準話しことば)(5%)
- (2)<http://www.google.co.kr/> の検索用例 [i と表示]

【日本語】

- (1)(1995)『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』新潮社. (戦後作品のみ) [出典名の略語で表示]
- (2)<http://www.google.co.jp/> の検索用例 [i と表示]

Contrastive Analysis of the Korean Adjective “*manhta*” and the Japanese Adjective “*ooi*” from the Syntactic viewpoint

— Focusing on the Predicate and Adnominal Usage of the Adjective —

Eun-Hee ANN

(PhD Candidate , Tokyo University of Foreign Studies)

In this paper, I will try to make a contrastive analysis of the Korean adjective “*manhta*” (lit. *ooi* in Japanese) and the Japanese adjective “*ooi*” and to search for a methodology of the contrastive description in Korean and Japanese lexes.

The Korean adjective “*manhta*” and the Japanese adjective “*ooi*” are both frequently used in each language. Each adjective means “large in number or quantity” and they are often used in a similar manner. “*manhta*” and “*ooi*” play various roles in a sentence. For example, each adjective serves as a predicate, and is used adnominally or adverbially. However, the existing contrastive studies on Japanese and Korean lexes have been conducted mainly from the semantic point of view. It is therefore no exaggeration to say that there is no contrastive study focusing attention on the actual behavior of words appearing in a sentence.

In this paper, I intend to focus on the specific appearance of the two words “*manhta*” and “*ooi*” in a sentence beyond the limits of the contrastive study on Japanese and Korean lexicology. In this case, I have divided a structure in which “*manhta*” and “*ooi*” are realized in a sentence into the following 3 types for consideration:

- (1) NA type: “X-*ga ooi*” (lit. there are many X’s);
- (2) NAN type: “X-*ga ooi M*” (lit. M in which there are many X’s); and
- (3) AN type: “*ooi X*” (lit. many X’s).

I will also refer to the correlation between semantic and syntactic aspects of the lexis while focusing attention on the relativity between these structures and the appearance of a noun phrase which co-occurs with each of “*manhta*” and “*ooi*”. The main points which became apparent in this paper are shown below:

1. The type of word-combinations of “*manhta*” and “*ooi*” appearing in a sentence

A marked difference between the two adjectives is that there are many word-combinations in which “*manhta*” is idiomatically used in

combination with [an abstract noun], while there are many cases where “*ooi*” is used in combination with [a defective noun].

2. The manner of appearance of the three structures (“NA type”, “NAN type” and “AN type”) in which “*manhta*” and “*ooi*” are realized in a sentence

A marked difference is that the “AN type” (i.e., many X’s) makes up 33.3% (433 examples) in “*manhta*”, but only 3.7% (20 examples) in “*ooi*”. The Japanese adjective “*ooi*” does not appear so often in a structure such as “*ooi ki*” (many trees), but this is used when co-occurring with an adverbial modifier such as “*amarini-mo ooi ki*” (so many trees) or with a noun phrase showing place, such as “*gakko ni ooi ki*” (many trees found in a school).

3. The correlation between each structure and the word-combinations

The three structures realized by “*manhta*” and “*ooi*” correlate well with the manner of appearance of a noun phrase X combining with each structure. There are word-combinations which appear, having preference for a certain structure.

4. Other morphological and syntactic features

As a result of examining the distribution of a particle such as “*ga*” of “X-*ga*” in “X-*ga ooi*” or “X-*ga ooi M*”, there were more cases of “*manhta*” than of “*ooi*” where the particle does not appear, such as “X ϕ *manhun M*”. This is a significant difference between the two adjectives. In particular, “*manhta*” showed a high frequency of 34.2% (82 examples) in the structure of “X-*ga ooi M*”, that is, the structure of the “NAN type”. Further, as a result of observing the examples, the Japanese adjective “*ooi*” has a tendency to show a preference for the structure of “~*ni ooi*~” such as “*bengosi ni ooi ketueki-gata*” (a blood type which is often seen in lawyers) as compared to “*manhta*”. I have also checked some other syntactic features here.

All the results are based on a quantitative analysis obtained from actual linguistic data of both languages. This paper is just a first step for a methodological trial in a contrastive description of lexicology. In order to build a new contrastive lexicology, we should not simply describe each word from the semantic point of view for contrast, but contrast the behavior of each word in the actual sentences.